

# 道東太平洋沖の流速場（2018年10月 海況速報No.184 付記）

2018/10/15

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

**親潮：**親潮の本流（O1：流速20～30cm/s程度（100m深））は厚岸～釧路沖を南西から南向きに流れています。流速は8月の観測時に比べて弱く、全体的に流れは不明瞭です。本流周辺の沖合には、100m深水温5℃以下の親潮水が分布しています。一方で、沿岸側にはオホーツク海から宗谷暖流水由来とみられる水温5℃以上の水塊が分布しています。

**暖水：**えりも岬の東側には暖水は分布していません。一方で、えりも岬の西側では津軽暖流水が大きく張り出しており、渦モードになっています。

**今後の見通し：**現在、道東太平洋沖に目立った暖水塊などは分布していませんが、親潮の勢力が弱まる季節なため※、全体的に流れは弱く不明瞭です。親潮の勢力は、例年通りならば、今後は年末にかけてさらに弱まり、年明け以降にまた強まると予想されます。

※参考：[http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/att/201806PA\\_current.pdf](http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/att/201806PA_current.pdf)

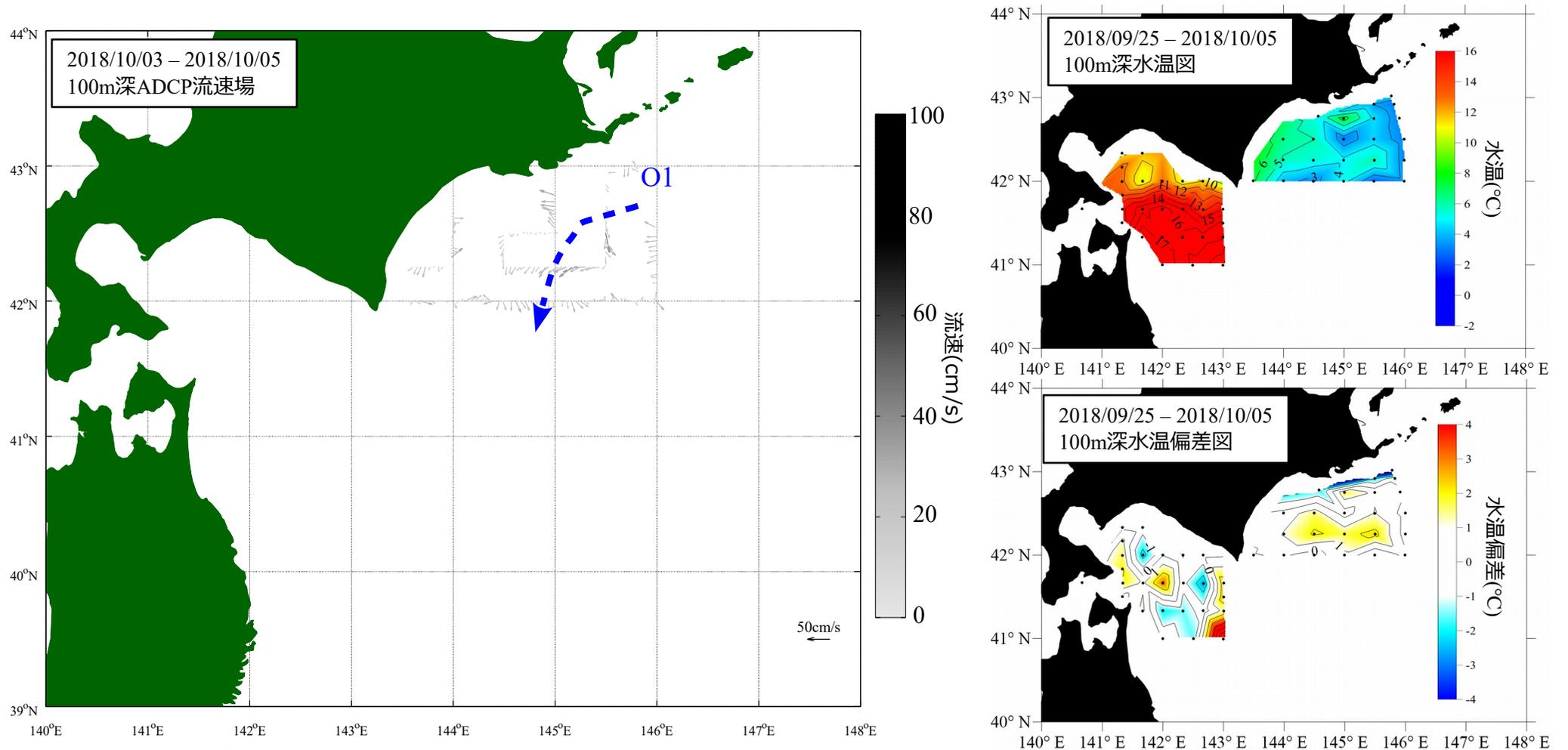


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さとの濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）の流れの模式図

図2（上）100m深水温図  
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）